

令和7年度第2回 国土交通省航空局 入札監視委員会 審議概要		
開催日及び場所	令和8年2月5日(木) オンライン形式による開催	
委員	委員長：橋爪 宏達 (大学改革支援・学位授与機構研究開発部 教授) 委員：江川 淳 (日本橋江川法律事務所 代表弁護士) 委員：平田 輝満 (茨城大学大学院理工学研究科 教授)	
審議対象期間	令和7年4月1日～令和7年9月30日	
建設コンサルタント業務等	1 件	
役務の提供等	2 件	
工事	0 件	
地方官署 工事・一般競争	0 件	
合計	3 件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回 答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

(別紙) 委員からの意見、質問、それに対する回答等	
意 見 ・ 質 問	回 答
<p>【建設コンサルタント業務等】</p> <p>一般競争</p> <p>「空港グランドハンドリング作業の生産性向上技術検討業務」</p> <p>○同種・類似案件を本件受注者以外が受注した実績はあるのか。</p> <p>○本件受注者以外の実績のある事業者は今回参加の見込みがあったのか。</p> <p>○資格条件や体制構築の難しさなど、実質的なギャップが原因なのか。</p> <p>○参加可能にするため、何が整っていればよかったかの分析はあるか。</p> <p>○一般的な一者応札対策として説明会は有効だが、負担が大きいのか。</p> <p>○新しい発想を得る業務として、必ずしも深い業界経験が必要なのか。また、より広い範囲の事業者参加の余地はなかったのか。</p> <p>○従来関与していない事業者からの意見（セカンドオピニオン）を得る価値もあるのでは。</p>	<p>○類似業務は過去に複数あり、本件受注者のほか2者ほどなども受注実績あり。</p> <p>○今回、過去の実績がある事業者で1者は資料ダウンロードをしておらず、もう1者はダウンロードしていた。</p> <p>○聞き取りの結果、特に公告期間内に業務遂行体制を構築できなかった点が主因と思われる。</p> <p>○技術提案作成に必要な情報提供の充実や発注見通し段階で分析内容をより具体化し、準備期間を確保させることや、個別説明対応などきめ細かい対応が重要と捉えている。</p> <p>○説明会実施事例の把握は十分でないため今後調査したい。少なくとも公告期間中の個別説明の要請には適切に対応したい。</p> <p>○グランドハンドリングは多主体・特殊環境下の業務であり、業界構造や制約理解が不可欠であり、成果確保の観点から実績要件は必要と考えている。同種・類似を含め約42社が要件を満たす想定で、現行水準を維持している。</p> <p>○新しい視点も重要と認識しており、今後業務内容を検討して参りたい。</p>

<p>○航空会社や空港会社の業務だが、航空局が行う必然性は何か。</p>	<p>○人手不足・生産性向上は業界共通課題。また国として、ルール整備・安全性確保・共通インフラ整備等を支援して関係者と一体で取組んでいる。</p>
<p>【物品の製造】 一般競争 「ILS-91H型ILS装置5式の製造」</p> <p>○本件受注者が長期にわたり単独で受注してきた状況なのか。</p> <p>○更新は何年に1回か。</p> <p>○過去実績がある事業者が価格面で撤退しているなら、本件受注者も将来撤退する可能性があるのではないか。</p> <p>○海外でも同等設備があるが、海外メーカーは発注対象にならないのか。</p> <p>○他の事業者も数年前まで入札に参加していたとのことだが、潜在的な競争相手はまだいるのか。</p> <p>○将来的に ILS-91 型装置から ILS-92 型装置へ移行する考えはあるのか。</p>	<p>○過去 10 年はすべて本件受注者が落札した。平成 28～30 年度は他の事業者も入札に参加していたが、令和以降は一者応札が続いている。</p> <p>○状況によるが約 13～15 年周期である。</p> <p>○本件受注者が価格をどう考えているかは把握していない。</p> <p>○海外メーカーを排除していないため、入札参加は可能である。ただ、これまで海外メーカーからの問い合わせや入札参加実績はない。</p> <p>○高カテゴリー型である ILS-92 型は他の事業者が受注しているので、その事業者は製造できる能力を持っていると思われる。</p> <p>○空港の気象条件に応じて設置する装置を決めている。霧等の影響を受けやすい空港に高カテゴリー (CAT-2/3) 型である ILS-92 型 (CAT-3) を、そのような状況にない空港に通常型 (CAT-1) の ILS-91 型を設置している。</p>

【役務の提供等】

一般競争

**「航空路管制処理システム（TEPS）性能向上
及び調整」**

○TEPS 本体と今回改修の関係、元の製造者は一緒か。

○入札公告後に関心を示した事業者はいたか。

○改修を重ねるが、全面更新するタイミングはいつか。

○実質的に他社の参入余地はないのでは。

○発注効率向上が見込める可能性を追求するとの理解でよいか。

○現行予定価格は目安になるのか。

○TEPS 本体は本件受注者が構築し、今回はそのソフトウェア改修である。

○約 10 社に周知したが、結果は一者応札であった。

○ハードウェアは約 7 年で更新。ソフトウェアもそのタイミングが一つの目安であるが、管制直結システムのため慎重な精査が必要となる。

○一者応札改善策として、昨年 7 月の第 1 回委員会において諮っていた公募型随意契約の活用を検討・試行中。

○価格高止まり是正も含め、まずは公募型随意契約の活用を試行したい。

○より精密な要件定義と査定により、価格引下げの方向で検討していく。